

居場所の大切さ

社会福祉学部社会福祉学科 2年 長坂 真歩

活動先：NPO 法人 はっぴいわん大府

ゼミ：松下 典子 先生

私は、サービ斯拉ーニングに行くまで NPO がどんな場所で、どんな取り組みを行っているのか全くとってよいほど知らなかった。また、どんな人が NPO を利用しているのかなど、事前学習不足もあり自分たちで企画を考える際イメージがあまりできず苦勞した。企画も曖昧な状態だったため、サービ斯拉ーニングに行くのは少し憂うつで不安だった。

しかし、はっぴいわん大府の方たちは皆さん温かく私たちを迎えてくださり、一気に不安な気持ちはなくなった。



はっぴいわん大府は、「いつ来てもいい、いつ帰ってもいい、もうひとつの家」という言葉を掲げ活動を行っている。生きがいを持って楽しく生きたいという市民の声にこたえるためボランティアでスタッフさんを募り、そのお手伝いをしている。

私が 6 日間のサービ斯拉ーニングで一番多くさせていただいたのは、昼食作りのお手伝いである。はっぴいわんの農園で採れた野菜を中心に、スタッフさんがすべて手作りで調理している。そこで、私が驚いたのは料理の手際の良さとメニューのレパートリーが多いことである。やはり長年自分の家庭、家族に毎日ご飯を作っているお母さんだけあるなと思った。同じ野菜でも料理によって切り方を変えたりと、サービ斯拉ーニングとは違うが生活の知恵などのようなことを学ぶことができた。そして、料理だけではなく、盛り付けの際にも利用者さんへの想いが伝わってきた。おいしいご飯をよりおいしく見せるように、お弁当のふたを開けたときに嬉しくなるように、とても丁寧にきれいに盛り付けをしていた。そういったところにも気を配ることが大切だと感じた。

そして、企画としてポスター作成をやらせていただいた。はっぴいわん大府の方から講演会のポスターの依頼があり作成した。たくさんの方たちに来ていただけるよう、目に止まるデザインや見出しということに気をつけ作成をしてみた。しかし、一から自分たちでポスターを作るのは思っていた以上に大変だということを実感した。さらに、はっぴいわん大府の紹介ポ



スターを作成した。これを作って感じたことはもっと広報の部分に力を入れる必要があると思った。私のように NPO がそもそもどんなところなのかを知らない人はまだまだいる。より多くの人に活動を知っていただくためにも、今回の活動だけで終わるのではなく、これから私たち学生が加わりアクションを起こしていくことが重要だと思った。

今回のサービ斯拉ーニングを通して、NPO のことを知れたということはもちろんですが、NPO の良さ、居場所の大切さを知ることができた。地域に我が家のようなほっとできるもうひとつの家があることはとても良いことである。現在は、孤独死や一人暮らし高齢者という言葉をよく耳にする。こういった方たちにとって、もうひとつの家に行くことで毎日が楽しくなり、最後まで生きがいをもって生活できるのではないかと思った。そこから新たな交流が広まり、お互いが顔見知りになり助け合いの仲間が生まれてくる居場所になっている。



しかし、良いことばかりではなく課題もまだまだあると感じた。はっぴいわん大府は男性や若いお母さん世代の利用が少ない。男性は女性と違い、ちょっと近くに来たからと言って気軽に来るといふことあまり多くないと考える。そのため、何か目的を作る必要があるのではないか。例えば、草刈り、畑仕事、大工仕事など体を動かすようなことをこちらから提案してみるのはどうだろうか。はっぴいわん大府に来る利用者さんは私たちより長く生きている分さまざまなことを知っている。そこで、料理教室などを開き、若者と高齢者の交流の場を設けることもできると考える。そうすることで、お互い刺激し合えることができるのではないか。課題をそのままにせず、何か行動をしていくことが大切だと感じた。さらに、何か足りないと感じたら自分たちで考え新たに生み出していくことも欠かせないことだと思った。

また、はっぴいわん大府は介護保険の事業をしていない。そのため、スタッフさんに十分なお礼を差し上げることができていない。それでも、たくさんスタッフさんがお手伝いをしているのはなぜだろうと疑問に思った。私がサービ斯拉ーニングをしてみて感じたことは、ここに遊びに来る利用者さんだけでなく、スタッフさんにとってもこの居場所に来ることが生きがいになっていると思った。常に地域の方のおしゃべりや笑い声が聞こえ、笑顔で包まれているはっぴいわん大府が好きなのだと感じた。

このようなアットホームでとても温かい居場所はなかなか地域にはない。これからもっとこういった居場所が増えてほしいと思う。この6日間で、普段では経験、体験できないことをたくさん学ぶことができた。この学びをこのまま終わりにせず、もっともっと深めていきたい。

